**奥　昭二 （おく・しょうじ）**

**１、プロフィール**

川柳作家。10代より川柳を始める。中央柳誌「川柳研究」「番傘」「ふあうすと」また、県柳誌「ねぶた」で活躍。県内外に名作家として高い評価を得ている。

＜生没＞

1913（大正２）年３月20日 ～ 1985（昭和60）年６月１日

＜代表作＞

句集『薮萱草』

＜青森との関わり＞

三戸郡三戸町生まれ。三戸町役場に勤務。

**２、作家解説**

大正２年三戸町上在府小路に誕生。本名正二。三戸尋常高等小学校高等科２年中退。その後上京し就職、川柳句会に出席し川柳入門。昭和13年（25歳）留崎村役場に公務員として勤務、後に町村合併で三戸町役場に勤務。昭和46年退職。

昭和５年、地元三戸町にある三戸川柳吟社に参加。当時県で唯一の柳誌であった「みちのく」誌に投句、研鑽を積む。戦後、中央有力誌である「川柳研究」「番傘」「ふあうすと」に投句、その作品は高い評価を得る。また県内では主に青森県川柳社機関誌「ねぶた」で活躍、同社の作家賞である県川柳年度賞の第１回（昭和41年）の受賞者となる。他に同社作品賞である「不浪人賞」を三度受賞する。

二代目三戸川柳吟社の代表を務めるなど、三戸町の川柳の発展に尽力。また名作家として全国にその名を知られ、県川柳界の発展に貢献した。

昭和60年６月１日死去。享年72歳。

平成４年11月、松原とおしが発起人となり県内外多数の協賛を得て、三戸町神明神宮に句碑を建立。

「子が走るはしる貧富の翳も無く」　　昭二

昭和54年、句集『薮萱草』を発刊。

**３、資料紹介**

〇『薮萱草』

図書

1979（昭和54）年10月10日

190mm×135mm

川柳句集。著者の唯一の句集で、それまでの全作品より680句を選りすぐった。また能筆家としても名が高く、全句を自筆で書いている。序を親交のあった西沢赤子、長谷川霜烏等が記す。編集松尾夢城、発行人船場けん吾。